

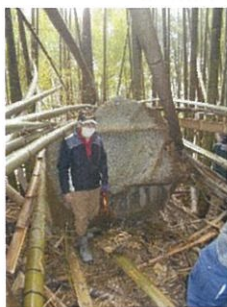
さとだよりの発刊にあたって

茅広江のさとだより発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。平素は茅広江住民自治協議会活動に対し、ご支援ご協力を賜りありがとうございます。

当協議会は昨年春より、従来のまちづくり協議会を住民自治協議会に改称し、文字通りまちづくりと自治会活動を統合した組織として、再出発させました。しかし皆様もご承知の通り、新型コロナウイルスが猛威を振るい、昨年秋には終息に向かうかに見えましたが、オミクロン株の感染が急拡大し、市民体育祭、ふれあい祭り、マラソン&ウォーキングなど、主たる事業が中止もしくは縮小を余儀なくされました。

こうした厳しい状況下ではありますが、昨年7月、助け合い組織「ちひろえ」が発足し、高齢者の方々から依頼があれば、有償ボランティアによって草刈りなどを行う活動が始まりました。活動は地域の元気応援事業の審査で高い評価を受け、他の地域・団体の反響は予想以上に大きく、こうした活動への関心が共通のものであるとの認識を深くしました。近い将来、益々大事な組織になるであろうと考えています。

一昨年から協議し、昨年春に作成した「茅広江地区防災計画」



は、猛威を振るう風水害への対策として、大きな役割を持っていると考えています。各地域の防災訓練の実施・危険個所の確認をはじめ、住民自治協議会においても、環境防災部会を中心に、活動の充実を図りたいと考えております。

新年度においてもコロナウィルスによって諸活動が影響を受けると考えますが、一日でも早く正常な日常に戻れることを願いつつ、工夫を凝らしながら取り組みを進めさせていただきますので、よろしくご協力をお願いします。

令和4年2月吉日

茅広江住民自治協議会

会長 若山 学

自治会部会

「住民自治協議会」の発足に伴い従来の「連合自治会」がなくなり、代わりに住民自治協議会の中にこれまでの4部会に加え「自治会部会」が作られました。話し合う内容としては、三地区の自治会に特化した課題の協議および自治会相互の連絡調整を行います。当初行事予定では、三地区でそれぞれ行われる防災訓練、環境美化活動などについて、情報交換を行う予定でした。

ことは最初4月に一度だけ話し合う機会が設けられましたが、その後は月例のまちづくり会議の中でほとんどのことが話し合われました。

防災訓練は、年間計画通り上茅原は11月21日、広瀬は10月31日に実施され、下茅原は5月予定でしたがコロナ関係で延期し、12月12日の環境美化活動の日を実施されました。

健康福祉部会



今年度も、新型コロナウイルス感染の問題があり、変異ウィルスのデルタ株やオミクロン株と急激に感染が広がってきました。たくさんの茅広江の方々に集まっていただけの「地区市民体育祭」は中止をさせていただきました。

また、「ふれあいマラソン&ウォーキング大会」は、「密集、密接を避けるということから今年度は、ふれあいウォーキングのみとし、申し込みを受け付けました。そして受付やスタートも時間をずらして行うようにし、お楽しみに茅原神社で「宝探

し、各ポイントで「クイズ」をするなど計画しておりました。しかし、三重県で新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が出されたこともあって、ウォーキングも中止せざるを得なくなりました。申し込みをしていただいていた参加者の方々には、宝探しの代わりに抽選をしていただき、賞品を受け取っていただきました。そんな状況の中で本年度実施できました行事を紹介させていただきます。

要支援者食事サービスは、5月29日、11月6日、2月5日に行いました。80歳以上の高齢者の方々にお寿司やお菓子をお届けし、元気なお姿や様子を聞かせていただきました。コロナウィルス感染の心配もあり業者のお寿司となったのですが、この食事サービスを楽しみにしていただいています方が多くあり、お元気な様子に私たちも嬉しくなりました。また、9月9日には敬老者の方々に「紅白まんじゅう」と「赤飯」をお届けし、喜んでいただきました。



6月12日、12月1日には、65歳以上の一人暮らしや寝たきりの方々に花の寄せ植えをお届けする花の慰問を行いました。少しでも気持ちが和んでいただけたらと思います。



グラウンドゴルフ大会は、6月5日、11月13日に南小学校にて行いました。子どもたちを含め参加者が楽しくグラウンドゴルフを楽しみました。

健康ウォーキングは、5月24日に丹生大師へ12人でウォーキングをしました。1月にも予定していたのですが、ふれあいウォーキングと同様に中止となりました。



環境・安全防災部会



今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、予定した計画のかなりの部分を中止とせざるを得ませんでした。三地区合同放水訓練、炊き出し訓練、教育

文化部会と合同で実施する予定の川遊びアソビ生き物調査が中止になりました。

ホテルの調査、ササユリの保護活動、花いっぱい運動、川の水質調査は実施することができました。ササユリとホテルの調査はコロナ対策として、三地区のそれぞれで、独自に調査を行い、結果をまとめました。

花いっぱい運動では、ニチニチソウを7月11日に、パンジーを11月21日に植え付けました。



また、櫛田川と六呂木川の水質調査は8月30日に実施しました。今回の広報誌においては、この水質調査の結果について、少し詳しく報告することにします。2020年8月19日と2021年8月30日の調査結果は下表のとおりです。

調査日	2020年8月19日		2021年8月30日	
	櫛田川	六呂木川	櫛田川	六呂木川
水素イオン濃度	7.8	7.9	7.6	7.8
生物化学的酸素要求量(BOD)	1.0 mg/L	0.6 mg/L	0.7 mg/L	0.6 mg/L
浮遊物質(SS)	1.4 mg/L	3.8 mg/L	0.8 mg/L	3.7 mg/L
溶存酸素量(DO)	8.6 mg/L	9.7 mg/L	8.6 mg/L	8.8 mg/L
大腸菌群数(MPN/100mL)	16000	24000	1700	16000

水素イオン濃度は酸性・中性・アルカリ性の程度を示すもので、調査結果の7.6~7.8は、ほぼ中性ということで、良好と言えます。

生物化学的酸素要求量(BOD)は、水中に有機物がどのくらい含まれているかを示します。水中の有機物量は多いほど水が汚れているということなので、この値は小さいほど良いこととなります。浮遊物質(SS)も少ないほど水が透明できれいということです。

溶存酸素量は水中に溶けている酸素の量ですから、多いほど良い川です。水中に住む魚や虫などの生き物は溶存酸素量が少なすぎると窒息して死んでしまいます。

大腸菌群数以外の検査項目の結果は、環境省の「生活環境の保全に関する環境基準」で、類型AAという、最も良い水質になるのですが、残念なことに、大腸菌群数という検査項目では、類型Bにも入らないこととなります。

大腸菌群数という検査項目は、人や動物の糞便が川に流れ込んできている不衛生な状態であるということになります。大腸菌群数が多くなっている原因については不明ですが、生活排水や農地か

らの水の流入だけでなく、大増殖しているイノシシやシカの糞便も原因の一つかもしれません。現在の櫛田川や六呂木川の水質は、決して良好なものではないと思われます。

地域振興部会



地域振興部会では、園芸教室・広報誌発行・サツマイモ作り・夏祭り協賛事業等が予定されてきました。「ふれあい祭り」は、今年度も11月に開催予定でしたが、コロナ感染の影響で中止になりました。2年連続の中止です。

しかし、密をさけるため期間を一週間にのばし展示の部のみ実施しました。各学校から地域の子もたちの作品もお借りし、展示をしました。保育園の保護者も含め、たくさんの地域の方々に来場していただきました。



サツマイモ作りは、令和3年6月発行の「茅江さとだより」にて報告させて頂きました通り、「ふれあい祭り」に伴う焼き芋の販売分の作付はやめ、「つばな保育園児」の収穫体験分を栽培しました。11月4日に、保育園児が楽しそうにサツマイモ堀を体験しました。保育園から、十数名の園児たちが行列を作り、ワイワイとにぎやかに保育士さんと畑まで歩いて来てくれました。



園芸教室は年間3回の予定でしたが、新型コロナウイルスの感染対策として、年2回、人数を制限して予定しました。7月7日にJAみえなかいざわサブセンターの永田さんを講師として、秋冬野菜の作り方について教えていただきました。2回目は、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となりました。



教育文化部会



教育文化部会は、「みんなで学び、育て合うまち」をテーマに、生涯教育を推進し参加者の皆さまと共にふるさとの良さを再発見していきたいという

ねらいのもとに1年間の事業をすすめてまいりました。しかしながら、今年度も新型コロナウイルスの感染が続き、当初計画をしておりましたそれぞれの行事、そして講座や趣味クラブも感染防止の観点から、残念ながら縮小を余儀なくされました。

その中でも「ふれあいまつり」に向けて、つばな保育園での「陶芸教室」や、ものづくり教室での「プリザーブドフラワー作り」を実施することができました。また、つばな保育園との交流行事は実施できませんでしたが、畑のいもづるを利用したクリスマスリース作りを園児のみなさんに楽しむでもらうことができました。心を込めて作られたそれらの作品は、コロナ禍の中での「ふれあいまつり」において見る人の心を和ませてくれました。



また、三地区に分かれての「映画観賞会」は、ちょうどコロナ感染が少なくなった時期に変更して行いました。参加者の皆さまには映画「浅田家」の家族の絆をテーマとした人間ドラマの世界にふれていただき良かったと思います。

また、趣味講座としては「小筆教室」「読書会」「ちひろえレストラン」等も開催することができました。活動メンバーの皆さまありがとうございました。



以上のように、参加者の皆さまの安全・安心を第一に「活動できる内容を活動できる時期に実施する」という判断で今年度の活動を進めてまいりました。度重なる変更につきまして、地域住民の皆さまには色々ご迷惑もおかけしたと存じますが、本部会の諸活動につきまして、あたたかく見守っていただき誠にありがとうございました。

7 大日如来

場所 上茅原太田広
時代 不詳

古くは通称池谷山の山上の平地に祀られていたが、大正末期里近くの田んぼ道の傍に下され、昭和になってから現在の位置の太田広に移された。大日様は日輪（太陽）を象徴したもので原始的信仰以来のものだが、昭和中期まで、牛を飼育する農家の組合で、牛の守護神として、毎年11月28日に餅蒔きをしてお祝いをする祭事が営まれてきた。



8 庚申供養塔

場所 上茅原中村
時代 元禄7年(1694)

市道の道路改修以前は一段高所に祀られていたが、改修されるに及び、古木氏方屋敷沿いの用地に移された。写真の如く自然石の体を伴うが本体は年号を刻む確かな文化財である。上茅原に庚申を祀る祠は4か所あるが、建立の時を知ることができるのはこの碑のみである。おそらく他の庚申もこの頃祀られたものと考えられる。



9 参宮街道の道標

場所 下茅原小川
時代 江戸時代

舟場という旧参宮道の難所の一つ津留の渡しの上に立っていた道標で「右さんくう、左まつさか道」と書かれている。

津留の方に船頭の家があって、茅原田から「オーイ頼もう」と大きな声で呼ぶと、向こう岸から船で迎えにきた。この津留の渡しは茅原田と津留を結ぶ参宮街道の重要な渡し場であった。渡し舟は昭和4年に新しい橋ができるまで続いた。渡し舟の方法は川幅いっぱい張った「八番鉄線」と呼ぶ線を手でたぐりながら舟を進めるいわゆる「綱越し横渡し」であった。



10 はかり岩

場所 下茅原小川
時代 江戸時代

大雨などで櫛田川の水かさが増えて、川中にある「はかり岩」と呼ぶ岩が水に隠れてしまうと、川止めになった。今でもはかり岩は、昔の名残を川の中に残している。しかし水量を計った石の棒の部分は、伊勢湾台風の際にもぎ取られ、今はその面影はなくしている。また、冬季は川の水量が減り、川幅が狭くなると、鳥居形に木材を組んで橋脚をつくり、その上に板を並べた時代もあったという。



11 天阿上人

場所 広瀬町西名小路
時代 享和2(1802)年没

天阿上人は久居・野村に生まれた。苦学して仏教の奥義を究め、諸国を巡り荒廃した幾多の仏閣を復興した。浄土宗の僧侶で御麻生園西光寺や広瀬町永正寺の住職を務めた。上人は多才の人で彫刻に秀でて書画の筆運びは巧みであった。晩年、櫛田川の中州に自らの墓を築き入寂する。伊勢湾台風の際、かつてない出水で、天阿上人の墳墓は一切流失した。よって墓地を写真の広瀬の共同墓地に移転して復元完成された。



12 天阿上人自伝の石

場所 広瀬町西名小路
時代 寛政12(1800)年

広瀬の共同墓地のある天阿上人の墓地の左前にある石には、石の全面に上人の自叙伝が刻まれている。「天阿上人は久居野村、北住祐西の子として生まれ、13歳にて出家し、17歳に小石川の山に入り、後に栃原に寺を建立し、後に御麻生園の寺の住職になり、後に(広瀬の)永正に移り、百両で寺を建て、五十両で18か所に古跡を立てた。京に五重授戒の道場を開き、弟子は二千人をこえた。云々・・・」と刻まれている。

